

CONTENTS

- P1 【特集】シンポジウム「IT時代の地域づくり」報告
- P2 【特集】シンポジウム「IT時代の地域づくり」報告
- P3 【活動報告】講演会開催報告
- P4 【活動報告】寒地型 ITS 調査研究報告、お知らせ

特集

シンポジウム「IT時代の地域づくり~21世紀のスマート北海道ライフ」報告

概要	
日時	平成 12 年 9 月 18 日 (月) 13:30 ~ 17:00
場所	ホテル札幌ガーデンパレス (札幌市中央区北 1 条西 6 丁目)
主催	札幌圏 ITS 推進フォーラム
共催	北海道、札幌市、北海道土木技術会道路研究委員会、自動車技術会北海道支部
参加者	一般入場者 210 名 (無料)
プログラム	主催者代表挨拶 基調講演 「IT 革命がもたらす地域構造の変革」 事例紹介 「次世代総合交通情報提供システムモデル実験の紹介」 パネルディスカッション 「21 世紀のスマート北海道ライフ」 閉会挨拶

事例紹介「次世代総合交通情報提供システムモデル実験」

続いて、事例紹介では「次世代総合交通情報提供システムモデル実験の紹介」と題し、運輸省運輸政策局情報管理部情報企画課専門官の生駒氏よりご紹介いただきました。

インターネット、携帯電話を始め、GIS や XML といった最新の情報通信技術を用いて、公共交通機関情報、バスロケーション情報、観光地やホテルなどの情報を提供し、いつでもどこでも利用者が情報を得られる実験の目的・内容などについてご紹介いただきました。この実験は本年 12 月から札幌市内で実施されており、その成果が期待されます。

実験ホームページの URL は以下の通りです

<http://www.ekibus.ne.jp/>



(写真) シンポジウム会場の模様



(写真) 基調講演でお話される月尾氏

基調講演「IT 革命がもたらす地域構造の変革」

基調講演では「IT 革命がもたらす地域構造の変革」とし、東京大学大学院新領域創世科学研究科教授の月尾氏よりご講演いただきました。

まず IT の技術的特徴や社会への影響について、米国での実例等を交えた説明の後、IT 革命がもたらすものとして、地理空間による支配がなくなること、大規模の必要性がなくなること、階層構造の破壊、地域の中での新たな強い経済の仕組みをあげられました。今後の対応として、コンテンツビジネスの発展と基盤整備を早くすることを指摘され、スピード、地域が自発的にオリジナル産業をつくること、箱ものをつくることではなく中身を考えることが必要というお話がありました。



(写真) 事例紹介でお話される生駒氏

パネルディスカッション「21世紀のスマート北海道ライフ」

パネルディスカッション「21世紀のスマート北海道ライフ」では、北海道大学大学院工学研究科教授の山本氏をコーディネーターに、関連分野の5名の方をパネリストに迎え行いました。

まずコーディネーターの山本氏から、IT関連技術はまだまだ発展途上であり、ITをうまく使える地域が更に伸びる。情報化は最終目的ではなく始まりであり、ITは既存の価値の「増幅器」である。北海道は「既存の価値の源の探求」と「増幅器を作ること」が必要との投げかけを頂きました。

開発土木研究所の加治屋氏は、IT技術で既存ストックの徹底活用を実現し、21世紀型社会資本整備のアプローチという視点から、寒地型ITSでスマート北海道ライフの実現をと提言されました。

北海道庁の藪氏は北海道における情報化計画策定指針の説明後、行政・地域・産業の情報化のために、基盤整備に加え、人材育成が必要であるとお話されました。

札幌市の瀬川氏は、札幌市のIT産業振興の取り組みについて経緯と今後の方向性について発表され、札幌駅北口周辺のいわゆるサッポロバレーと呼ばれる情報関連企業群をはじめとする民間主導の動きに加え、行政としてもデジタルコンテンツ産業の支援に向けて準備中であるとお話がありました。

リクルートじゃらんの中田氏は、観光・レジャーにおける情報化という視点で、リクルート社のISIZE(イサイズ)というWWWサイトを例に発表いただきました。ITという手段を有効活用するためにも、行政の支援の元、人材育成に力をいれて欲しいとお話がありました。

最後にフリーキャスターの林氏は生活者・女性という視点から、北海道にこそITが活用されるべきであり、今後は通信料金の価格ダウン、利用者の視点に立ったさまざまな世代に利用しやすいものづくりなどの必要性を訴えられ、最後に、ITは目的ではなく手段であり、人々の幸せにつながるものであって欲しいと結ばれました。



(写真) パネルディスカッションの様相

アンケートについて

また、シンポジウム開催時に行ったアンケートでは、「IT」という言葉はほとんどの方に知れ渡っており、職場におけるインターネットや電子メールの活用は非常に高い割合であることがわかりました。また、ITSについても回答者の93%が「知っている」と回答し、VICSやETCなどの取り組みはもはや一般的になったといえそうです。

シンポジウムの内容はフォーラムホームページからご覧頂ける他、CD-ROM(札幌圏ITS推進フォーラムの取り組み)にも収録しておりますので、より詳細な内容をご覧になりたい方はこれらをご利用下さい。

札幌土木現業所 ITS セミナー

平成13年1月12日(金) /かでの2・7

平成13年1月12日にかでの2・7におきまして、北海道札幌土木現業所主催による地域セミナー「札幌土木現業所ITSセミナー」が開催されました。

本セミナーの内容について、掲載の許可をいただきましたので、会員の皆様にご紹介いたします。

プログラム

- ・基調講演「北海道の活性化とIT」田村重信(慶応大学大学院講師)
- ・講演「北海道におけるITSの取り組み」松沢勝(北海道開発局開発土木研究所道路部防災雪氷研究室主任研究員)
- ・講演「自動車業界におけるITS(トヨタのITSへの取り組みについて)」小出公平(トヨタ自動車(株)ITS企画部企画渉外室長)
- ・講演「北海道におけるITS導入」古屋稔(北海道札幌土木現業所所長)
- ・パネルディスカッション

講演概要(キーワード)

「北海道の活性化とIT」より

北海道活性化の具体的ポイント(1)IT革命に乗る、(2)リストラはある(新産業創出 若者に魅力を)、(3)住みやすさの追求(教育、ITと英語、北海道に外国人を)、(4)公共投資はIT基盤に重点を(ITSなど)、(5)ソフトの作成(番組提供、自然・季節、山と海など、音楽、ハリウッドなど)、(6)観光(ハブ空港、飛行機運賃、福岡は安い、外国機の載り入れなど、ショッピングモール、テーマパーク)、(7)北海道モデルは米国コロラド州、(8)北海道活性化・アクションプログラム(行動戦略)の策定(シンクタンク)

「北海道におけるITSの取り組み」より

冬期交通とITS(ITSと北海道の親和性[ITSアイランド北海道])、「北の道ナビ(<http://navi.h-road.gr.jp/>)」、「札幌圏ホワイトネット実験プロジェクト~冬期道路の情報共有実験から気象条件に応じた交通需要マネジメントに向けて」、寒地地AHS(走行支援道路システム)の開発、2002PIARC 国際冬期道路会議札幌大会、詳細は「北の道ITS/Win」のホームページ<http://www2.ceri.go.jp/its-win/>まで

「トヨタのITSへの取り組みについて」より

トヨタのITSへの取り組み5分野、「車そのものの高機能化=クルマのインテリジェント化」、「新しい移動体通信分野=カー・マルチメディア」、「社会インフラと車の協調=ファシリティズ」、「総合的効率的な輸送システム=ロジスティクス」、「次世代の交通システム=トランスポート」

「北海道におけるITS導入」より

「建設施策の展開方向へのITS導入」、「魅力ある北海道観光の支援へのITSの導入」

道におけるITS導入の基本的考え方(1)地域特性(冬・観光等)に応じたITS、(2)維持管理の効率化・高度化、(3)交通事故の削減、(4)落石危険箇所の監視など道の防災体制の強化、(5)情報の収集・共有・伝達の高度化、(6)段階的な導入

以上

寒地道路技術に関する国際会議報告会

平成 12 年 12 月 26 日(火) / ホテルポールスター札幌

さる 12 月 26 日(火)、北海道土木技術会道路研究委員会の主催、自動車技術会北海道支部・当フォーラム共催により上記講演会が開催されましたので、ご報告いたします。

日 時：平成 12 年 12 月 26 日(火) 15:00～17:00

場 所：ホテルポールスター札幌

演 題(講師)：

- 第 5 回 TRB 除雪と雪氷対策技術に関する国際会議の報告
((社)北海道開発技術センター 研究員 田邊慎太郎氏)
第 7 回 ITS 世界会議 2000 トリノ大会の報告(北海道開発局開発土木研究所防災雪氷研究室長 加治屋安彦氏)
2002PIARC 国際冬期道路会議札幌大会に向けて(北海道開発局開発調整課開発専門官 谷村昌史氏)

ここでは前 2 題について簡単に内容をご報告いたします

『海外視察 - Virginia's Smart Road の研究概要 - 』

(社)北海道開発技術センター 田邊 慎太郎

TRB 第 5 回除雪および雪氷対策技術に関する国際シンポジウムのテクニカルツアーにおいて、- Virginia's Smart Road の見学をすることができた。そこでは、試験コースと隣接した研究所の視察および所属する研究者の研究報告を聴講した。この Virginia's Smart Road は、近年日本でも重点施策として取り組まれている ITS(高度道路交通システム)の試験コースである。試験コースは、Virginia 州南西部の Blacksburg から Interstate 81 までの 5.7mile(約 9.1km)の未共用区間を用いて行われている。研究体制は、Virginia Department of Transportation (VDOT)、Virginia Tech Transportation Institute (VTTI) が主体となり、Federal Highway Administration (FHWA)のほか建設関連、自動車関連企業が参加している。ここでの研究概要は以下の通りである。

- (1) 75 機の人工降雪機により、全天候を再現した走行試験(写真)
- (2) 可変光照明により運転者の視界条件の影響に関する試験
- (3) 光ファイバーと無線による実用的コミュニケーションシステムに関する研究
- (4) 様々な道路環境に設置した大規模にセンサーを配置した道路構造に関する研究
- (5) 動的載荷試験による舗装の寿命やパフォーマンスに関する研究



写真 人工降雪機による降雨を再現した様子

また、地域の道路情報や地域情報の提供も研究テーマとしており、これらの詳細は、以下の URL を参照していただきたい。http://www.vdot.state.va.us/default.htm

『第 7 回 ITS 世界会議トリノ大会に参加して』

開発土木研究所防災雪氷研究室長 加治屋安彦

去る 11 月 6～9 日にイタリアのトリノ市で第 7 回 ITS 世界会議が開催された。この会議に参加する機会を得たので、この紙面で会議について紹介することとしたい。

ITS 世界会議は、1994 年のパリ大会に始まり、その後、横浜、フロリダ、ベルリン、ソウル、トロントと続き、今年のトリノ大会で 7 回目となる。

今回の会議には、世界 53 ヶ国から約 7300 名が参加し、発表論文数は 620 編にのぼった。このうち、日本は参加者で 853 名、論文数で 185 編とかなりの割合を占めていた。

今回のテーマは、"From Vision to Reality"、夢を語るだけではなく、実用になるもの、ビジネスになるものを議論しようという趣旨である。そんな趣旨からか、いたるところで、モバイル・インターネットやカー・マルチメディア、そしてビジネスモデルというキーワードが目についた。

昨年から今年にかけて、インターネットにアクセスできる携帯電話が日本で爆発的に普及したことを受けて、これらのサービスを提供する携帯電話会社の発表などもいくつか見られた。どれも立見が出るほどの盛況で、EU では ITS を包含する概念として「モバイル情報社会」という言葉を盛んに使っていた。ついこの間まで、多くの ITS 関係者は携帯電話を ITS とは分野の異なるものとして見ていたと思うが、そんな話がまるでウソのように感じられた。

また、展示会では、コネクティッドカー、カー PC などというキーワードが至るところに見られ、ネットに接続された車でどのようなサービスが提供できるか、それが今後のビジネスの主戦場であり、どこも将来の可能性の大きさを盛んにアピールしていた。

閉会式で、EU の代表者が、90 年代初めには特定のアプリケーションが特定のデバイスで動いていた、それが 90 年代後期になって複数のアプリケーションが汎用のデバイスで動くようになった。さらに将来はモバイルで高速なインターネットが当たり前になる、と変わりつつある ITS の時代認識をプレゼンテーションしていたのが印象的であった。

この会議の次回開催地はシドニーで、オリンピックに続けて ITS 世界会議も誘致に成功している。そう思っていていたら、トリノも 2006 年には冬季オリンピックを開催するのだという。なんと、気のきいた都市はどこもいろいろ考えているのだと、改めて考えさせられた次第である。

参考ホームページ

< TRB >

<http://www.nas.edu/trb/>

< Virginia's Smart Road >

<http://www.vdot.state.va.us/proj/smartz.html>

< ITS 世界会議 : VERTIS ホームページ >

<http://www.ijnet.or.jp/vertis/j-frame.html>

< ITS 世界会議トリノ大会 >

<http://www.torino2000.itscongress.org/>

寒地型 ITS の調査研究報告

概要

平成 11 年度に道路・交通・車両インテリジェント化推進協議会が行った「ITS モデル地区実験構想の調査研究報告書(平成 12 年 3 月)」中に、札幌市を対象とした ITS ケーススタディの提案があります。

積雪寒冷地の代表地として選定された札幌市への提案であるこの実験システムを

より現実的な内容への昇華

札幌以外の積雪寒冷地への適用

にするには、提案内容の詳細化または一般化が欠かせないと考えました。

このため、札幌圏 ITS 推進フォーラムでは、「寒地型 ITS の調査研究」と題した調査研究の公募(当フォーラム会員を対象)を行い、その成果を取りまとめました。

調査研究テーマ

(1) マルチメディアの活用による気象条件に応じた交通機関選択システム

(2) 高齢者・障害者等を対象とした情報提供システム

(3) その他積雪寒冷地の ITS に関する調査研究実験システム

調査・研究結果

公募の結果、4 会員から以下のような成果をいただきました(応募順、会員名などの敬称は略させていただきます)。

タイトル

「一般テレビ画面の L 字画面化による気象情報・交通情報の提供システム」

会員名称：日本データサービス(株)

共同機関：(株)ディキャスト、北海道日興通信(株)

概要

インターネットホームページを基本として多種多様な情報源を活用し、テレビ放送により情報提供するシステムの提案。運用管理サポートシステムを完備。

問い合わせ先

日本データサービス(株)情報 SI 開発室 塩谷彰浩

TEL: 011-780-1199 / FAX: 011-780-1130

電子メール: a-shiotani@ndsinc.co.jp

タイトル

「スポーツなどイベント開催時におけるシャトルバス運行管理システムイメージについて」

会員名称：大成建設(株)

共同機関：大成建設(株)札幌支店、大成建設(株)土木技術開発部遠隔建設技術開発室、大成建設(株)エンジニアリング本部

概要

安全で効率的な冬場の交通環境を図るため、日常的な道路交通情報等の提供サービスと、スポーツイベントなどに対する交通支援システムの提案。

問い合わせ先

大成建設(株)札幌支店 土木営業部 岡川秀幸

TEL: 011-241-1617 / FAX: 011-232-5098

電子メール: okagawa@ce.taisei.co.jp

タイトル

「インターネットを活用した移動中のドライバーへの情報提供システム」

会員名称：三菱電機(株)

共同機関：なし

概要

運転者運行管理者の安全性向上や運転者への警報と状態通知を目的に、位置情報と XML(RWML) 技術の活用により最適情報を提供するシステムの提案。

問い合わせ先

三菱電機(株)北海道支社公共部公共第二課 松島緑朗

TEL: 011-212-3716 / FAX: 011-207-6051

電子メール: rokuro.matsushima@melco.co.jp

タイトル

「携帯パケット網を利用した除雪情報システム」

会員名称：(株)NIT データ北海道支社

共同機関：なし

概要

道路管理の高度化、多様化する道路防災への対応を目的に、即応性、運用性、柔軟性、拡張性のあるシステムを提案。携帯パケット網の利用によりランニングコストも安価。

問い合わせ先

(株)NIT データ北海道支社 公共システム部営業担当 鈴木義則

TEL: 011-281-7004 / FAX: 011-272-2757

電子メール: suzukiysn@nttdata.co.jp

その他

土木の日パネル展示(H12/11/10~14、札幌地下街オーロラタウン)にて、フォーラムのパネル、パンフレット、会報および講演会や寒地型 ITS 調査研究成果を収めた CD-ROM を配布いたしました。

事務局よりお知らせ

連絡先が変更になった場合は同封の変更申込書をご利用の上、郵送または FAX で事務局まで送付願います。

会報第 5 号は平成 13 年 6 月発行予定です。

年会費納入のお願い

年会費をまだお納めになっていない方はお早めにお納め願います。なお振り込み手数料は各自でご負担願います。

(振込先) 北洋銀行札幌市役所支店

(普)3135872 札幌圏 ITS 推進フォーラム

編集・発行 / 札幌圏 ITS 推進フォーラム(Sapporo ITS Forum)

<http://www.sapporo-its.gr.jp/>

事務局 / 〒060-0001

札幌市中央区北 1 条西 3 丁目 MN ビル 10 階 札幌総合情報センター(株)内

TEL 011(232)4848 FAX 011(232)0048

E-mail info@sapporo-its.gr.jp

事務局長：青山 彰 事務局員：金村 直俊、安藤 浩司